

# 自己点検・評価委員会 報告書

平成 27(2015)年 3 月

桐朋学園大学院大学

<input type="checkbox"/> 平成 21(2009)年度	.....	2
<input type="checkbox"/> 平成 22(2010)年度	.....	3
<input type="checkbox"/> 平成 23(2011)年度	.....	5
<input type="checkbox"/> 平成 24(2012)年度	.....	7
<input type="checkbox"/> 平成 25(2013)年度	.....	9
<input type="checkbox"/> 平成 26(2014)年度	.....	12

## 平成 21 (2009) 年度

### 【平成 22 (2010) 年 2 月 16 日 (火) 第 1 回 自己点検・評価委員会】

・平成 21 (2009) 年度、日本高等教育評価機構による認証評価を受審し、「調査報告書案」における改善を要する点および参考意見について確認を行い、今後検討して行くこととした。

・平成 22 (2010) 年度にファカルティ・ディベロップメント委員会を発足させること、学則に成績評価について明記することとした。

## 平成 22(2010)年度

### 【平成 23(2011)年 3 月 3 日(木) 第 1 回 自己点検・評価委員会】

・本年度行った、学生による「授業評価調査」の結果報告について確認を行い、指摘事項について改善をして行くこととした。

・平成 21(2009)年度、日本高等教育評価機構による認証評価を受審し、「基準を満たしている」と認定されたが、「調査報告書」で指摘を受けた事項についての本学の取組み、および進捗状況等についての確認を行った。

◇成績基準を学則に定めること・・・「研究科委員会」において学則変更の協議中

◇ハラスメント防止委員会規程の制定

・・・本年度 10 月開催の「研究科委員会」において承認、次年度より施行

◇公的研究費の取扱いに関する規程の制定

・・・本年度 10 月開催の「研究科委員会」において承認、次年度より施行

◇緊急行動マニュアルの充実、整備・・・事務部において作成中

◇建学の精神をホームページに掲載・・・本年度当初より掲載

◇特別講座の取扱いについて・・・単位認定のカリキュラムとする方向で協議中

◇「自己点検評価委員会」他(各協議会)に関する案件を「研究科委員会」ではなく、個別に会議を開催し処理すること

・・・各固有の案件ごとに議論し、各会議体の議事として議事録を作成する

◇シラバス記載方法の統一・・・各担当教員へ依頼済み

◇就職、学生支援の充実、オフィスアワーの開設

・・・就職、学生支援については、大学の学生支援課との更なる連携を図る

オフィスアワーについては教授による「相談室」を開設する

◇FD 活動の組織的推進・・・本年度 10 月開催の「研究科委員会」においてFD委員会  
規程を審議、承認し、次年度より施行

◇中期経営および人事計画の策定

・・・本年度 2 月開催の「富山キャンパス会議」において平成 24 年度  
からの「5 年間の中期収支見通し(含む人事計画)」を審議、承認

◇自己点検評価報告書の公開・・・本年度当初よりホームページに掲載し公開

## 平成 23(2011)年度

### 【平成 23(2011)年 4 月 6 日(水) 第 1 回 自己点検・評価委員会】

・平成 23(2011)年度の自己点検・評価項目について、次のとおり承認した。

◇カリキュラムの見直し(学則変更)

◇緊急行動マニュアルの見直し(再作成)

◇シラバス記載内容の見直し(更なる充実および統一化)

◇オフィスアワー(相談室)の検討(行事予定へ組込む)

◇FD活動の充実(「教授法」の実施)

**【平成 24(2012)年 3 月 4 日(日) 第 2 回 自己点検・評価委員会】**

・本年度行った、学生による「授業評価調査」の結果報告について確認を行い、指摘事項について改善をして行くこととした。

・本年度の自己点検・評価項目の改善状況についての確認を行った。

◇カリキュラムの見直し(学則変更)・・・学則変更が理事会にて承認、文科省へ届出  
研究科委員会にて新カリキュラムを承認

◇緊急行動マニュアルの見直し(再作成)・・・次年度継続「自己点検・評価項目」とする

◇シラバス記載内容の見直し(更なる充実および統一化)・・・記載内容等について改善

◇オフィスアワー(相談室)の検討(行事予定へ組込む)

・・・次年度継続「自己点検・評価項目」とする

◇FD活動の充実(「教授法」の実施)・・・FD委員会において意見交換を行った

## 平成 24(2012)年度

### 【平成 24(2012)年 4 月 5 日(木) 第 1 回 自己点検・評価委員会】

・平成 24(2012)年度の自己点検・評価項目について、次のとおり承認した。

◇緊急行動マニュアルの見直し(継続事項)

◇オフィスアワー(相談室)の検討(継続事項)

◇富山キャンパス事務業務の再構築



**【平成 25(2013)年 3 月 7 日(木) 第 2 回 自己点検・評価委員会】**

・学生による「授業評価調査」の結果報告についての確認を行い、指摘事項について改善をして行くこととした。

・本年度の自己点検・評価項目の改善状況についての確認を行った。

◇緊急行動マニュアルの見直し(再作成)・・・事務部総務課にて作成

◇オフィスアワー(相談室)の検討(継続事項)

・・・学生便覧に記載し、オリエンテーションにて説明

◇富山キャンパス事務業務の再構築・・・次年度継続「自己点検・評価項目」とする

## 平成 25(2013)年度

### 【平成 25(2013)年 5 月 16 日(木) 第 1 回 自己点検・評価委員会】

- ・平成 25(2013)年度の自己点検・評価項目について、次のとおり承認した。

◇富山キャンパス事務業務の再構築(事務業務の再点検、組織の見直し等)

### 【平成 25(2013)年 6 月 13 日(木) 第 2 回 自己点検・評価委員会】

- ・自己点検・評価委員会規程の改正を行い承認した。
- ・自己点検・評価委員会実施要領の改正を行い承認した。
- ・本年度の自己点検項目「富山キャンパス事務業務の再構築(事務業務の再点検、組織の見直し等)」について、次回会議時に検討方法について審議することとした。

**【平成 25(2013)年 7 月 4 日(木) 第 3 回 自己点検・評価委員会】**

・本年度の自己点検項目「富山キャンパス事務業務の再構築(事務業務の再点検、組織の見直し等)」について、事務局において原案を作成し本委員会で審議することとした。

**【平成 25(2013)年 11 月 7 日(木) 第 4 回 自己点検・評価委員会】**

・「富山キャンパス事務業務の再構築(事務業務の再点検、組織の見直し等)」について、事務局より、年齢構成を念頭に置いた専任事務職員の適正人数枠の検証と嘱託事務職員を始めとする非常勤事務職員の具体的な配置計画を立案することによって、財政面からも成立する人員枠と人員配置を明確に示した上で、事務組織の再編の是非について業務配分の見直しを含めた検討を進めていくことが適切であるとの提案がなされ、審議の結果、提案どおり、事務局組織再編の必要性および人員配置計画の基盤づくりについて検証していくこととした。

**【平成 26(2014)年 3 月 6 日(木) 第 5 回 自己点検・評価委員会】**

・本年度の自己点検項目であった「富山キャンパス事務業務の再構築(事務業務の再点検、組織の見直し等)」については、年度内に人員配置の見直しが行われ、基盤づくりが終了した。

・学生による「授業評価調査報告書」に基づく改善状況についての確認を行った。

■ コイン式コピー機の設置

■ 重奏研究の研究課題曲選曲方法についての改善

■ 授業における指導方法に関する改善

## 平成 26(2014)年度

### 【平成 26(2014)年 5 月 8 日(木) 第 1 回 自己点検・評価委員会】

・平成 26(2014)年度の自己点検・評価項目について、平成 28(2016)年度に大学機関別認証評価の受審を控えていることもあり、平成 25(2013)年度の基準による判断例を基に、本学の検証を行うこととした。

### 【平成 27(2015)年 1 月 15 日(木) 第 2 回 自己点検・評価委員会】

・日本高等教育評価機構の「大学機関別認証評価 平成 25 年度 判断例」に基づき、本学において懸念される事項について審議し、現状(下記)の確認を行った。

○研究科又は専攻ごとに人材の養成に関する目的やその他の教育上の目的が学則などに定められていない場合は、「改善を要する点」として指摘し、公表する。

★大学院設置基準第1条の2に「大学院は、研究科又は専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則等に定めるものとする」と規定されている。本学は1研究科1専攻のみで構成されていることから、学則第1条（目的）が、本学の目的であると同時に音楽研究科の目的でもあると認識している。

○1年間に履修登録できる上限が設定されていない場合は、原則「改善を要する点」として指摘し、公表する。

★本学は独立大学院であり、学生は履修する授業科目を主任指導教員の指導のもとに決定し、学生一人ひとりに適した履修登録を行っていることから、1年間に履修登録できる上限は特に設定していない。

○学生相談室及び保健室などが設置されていない場合は、「改善を要する点」として指摘し、公表する。

★本学は入学定員10名、収容定員20名の独立大学院で、財政上の課題があることから、学生相談室及び保健室については、同一法人が設置する桐朋学園大学の学生相談室及び保健室と連携することでその機能を賄っている。学生寮が隣地に完備されていることもあり、保健室を校舎内に設置する必要性が実質的には無く、緊急時にも近隣の医療機関と委嘱契約を結ぶことによって対応できるようにしている。

○FD活動が組織的に行われていない場合は、「改善を要する点」として指摘し、公表する。

★本学では「ファカルティ・ディベロップメント委員会」を設置し、教育研究活動の向上に資する活動に組織的に取り組んでいる。その一環として、近年では、学校説明会開催時に「ファカルティ・コンサート」を実施し、教員相互で室内楽を組んで演奏したり、互いに聴講して評価し合うことを行っている。

○教養教育の体制が整備されていない場合は「改善を要する点」として指摘し、公表する。

★本学のカリキュラム上で、選択科目に「特別企画講座」を設け、専門教育だけでなく、演奏研究を行ううえで有意義となるような教養教育を開設している。

### **【平成 27(2015)年 3 月 5 日(木) 第 3 回 自己点検・評価委員会】**

・学生による「授業評価調査」の結果について報告がなされ、審議の結果、課題点について精査し、研究科委員会において改善に向けて検討して行くこととした。

・学長より、直前のレッスン等のスケジュール変更は、出来る限り避けるよう各教員へ要請した。